

第268回 令和8年7月9日（木）

「石とボール」

例えばゴムボールを床に転がすとコロコロとよく転がりますよね。床が傷つくこともないですし、ボールは弾みをつけながらどこまでも転がっていきます。

これがゴツゴツした石ならどうでしょうか。なかなか転がらないと思いますし、床にぶつかるたびに傷をつけてしまいます。角が勢いよくぶつかる床もへこみますが石のほうが欠けることもあるでしょう。

若いころは石みたいなものです。まだ硬いところがたくさんあって、尖っているので社会の中でぶつかることも多々あります。その場合相手も傷つきますが、石のほうも痛いはずですよ。

強く激突すると石が欠けたり割れたりしますが、若いころはそのくらい大きなショックを受けることも少なくありません。経験によっては一生残る傷跡になることもあるかもしれません。

ただこれを繰り返していくうちに石はやがてボールになっていきます。年齢を重ねて角が取れてくると、相手とぶつからなくなったり、柔軟に対応できるようになったりします。ボールですから床も傷まず自分も傷つかないようになります。

それでも1箇所や2箇所、硬さが残っていることもあります。「ここだけは譲れない」という部分は大人になってもあっていいと思います。すべてゴムボールになるのではなく、芯のあるボールになることは悪いことではありません。

大人になっても石のままという人もいます。自分が絶対正しいと思っている人は床を傷つけても欠けることはありません。社会に出てもあらゆるところでぶつかって相手を傷つけてしまいます。床もボロボロになるのでそのような石からは離れていくのではないのでしょうか。

ゴムボールになっても年をとると空気が抜けて弾まなくなってきました。他人と触れ合ってもあまり刺激を受けなくなってしまいがちです。柔軟性はあっても弾力性がなくなってしまうと人間としての成長がなくなってしまいます。

理想はスーパーボールです。いつまでも高く弾み、どこにいくのか予測もつきません。スーパーボールはなかなか弾力が落ちませんよね。年をとっても初めてのことにチャレンジしていろいろなことに刺激を受けて大きく弾みたいものです。

みなさんはまだ石の段階ですから許容できないこともたくさんあると思います。いろいろな人と触れ合って経験を積むと許せることが増えてきます。